

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」【要旨】

【学校規模の標準を下回る場合の対応の目安】

■小学校

規模	学級数	状況	対応
標準規模を下回る学校規模	1～5	【複式学級が存在する規模】	教育上の課題が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。
	6	【クラス替えができない規模】	教育上の課題があるが、児童数が少ない場合は特に課題が大きいため、児童数の状況や、更なる小規模化の可能性、将来的に複式学級が発生する可能性も勘案し、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。
	7～8	【全学年ではクラス替えができない規模】	学校全体及び各学年の児童数を勘案し、教育上の課題を整理した上で、学校統合の適否も含め今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。 将来的に複式学級が発生する可能性が高ければ、6学級の場合に準じて、速やかな検討が必要である。
	9～11	【半分以上の学年でクラス替えができる規模】	学校全体及び各学年の児童数を勘案し、教育上の課題を整理した上で、児童数予測等を加味して今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。
標準	12～18		

■中学校

規模	学級数	状況	対応
標準規模を下回る学校規模	1～2	【複式学級が存在する規模】	教育上の課題が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。
	3	【クラス替えができない規模】	教育上の課題があるが、生徒数が少ない場合は特に課題が大きいため、生徒数の状況や、更なる小規模化の可能性、将来的に複式学級が発生する可能性も勘案し、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。
	4～5	【全学年ではクラス替えができない規模】	学校全体及び各学年の生徒数を勘案し、教育上の課題を整理した上で、学校統合の適否も含め今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。 将来的に複式学級が発生する可能性が高ければ、3学級の場合に準じて、速やかな検討が必要である。
	6～8	【全学年でクラス替えができ、同学年に複数教員を配置できる規模】	学校全体及び各学年の生徒数を勘案し、教育上の課題を整理した上で、生徒数予測等を加味して今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。
	9～11	【全学年でクラス替えができ、同学年での複数教員配置や、免許外指導の解消が可能な規模】	教育上の課題を生じているかを確認した上で、生徒数予測等を加味して今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。
標準	12～18		

※小学校及び中学校の標準学級数を超える規模の対応は従来のとおり。